



はじめに



認定看護師の活動にご協力いただき  
ありがとうございます。  
12月に実施した  
「ポジショニングの勉強会」では  
看護だけでなくPTや歯科の方々の  
ご参加も頂きました。  
今後も認定看護師で力を合わせながら  
頑張っていきたいと思えます！  
よろしくお願い致します！



脳卒中リハビリテーション看護 (木村)

脳卒中卒中治療ガイドライン2015年が発売されました！  
2009年から改定され新しくなっています。  
脳卒中ガイドラインは脳卒中の病期に沿った対応方法が  
具体的に書かれています。ぜひ、参考にしてください。



♡ワンケア・ワンギフト・ワンリハビリ♡

3病棟では、ベッドサイドで看護師による  
関節のストレッチを行っています。  
オムツ交換や更衣時などに行うことで、  
関節の拘縮予防や可動域の拡大につながり  
患者さんに対してのプレゼントになります。  
(痛みや可動域の制限の有無など医師や訓練士に  
相談し実施しています)



股関節のストレッチ

皮膚・排泄ケア (大塚)

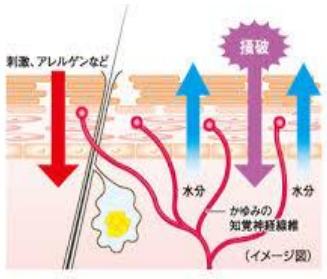
今回は、ピーソフテンローション0.3%についてお知らせします。  
ヒルドイドローションの後発品で、今年度、院内処方薬として採用。  
非常に伸びがよく、脆弱な皮膚に負担が少なく塗布できます。



冬場は乾燥しており、保湿ケアをしないとドライスキン  
になり、皮膚障害や褥瘡が発生しやすくなります！！

特に男性は保湿ケアの習慣が少ないため、  
注意が必要です。

保湿ケアでドライスキンを予防しましょう！！



使用注意が必要な患者

:薬でかゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある、出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病など)、僅かな出血でも重大な結果が予想される患者。妊娠または授乳中他に薬などを使っている患者は、医師と薬剤師に相談しましょう。

摂食嚥下障害看護 (板垣)

NSTで新しい経管栄養を導入しています。その名も「粘度可変型流動食」です！  
つまり、摂取時は液体で、胃の中で半固形状になるよう設計された栄養剤のことです。

「マーメッド」と「ハイネイーゲル」がこれに当たります。  
これらは胃酸と反応して胃内で固まる性質を持っています。  
経鼻胃管にも適応し、自然滴下(クレンメ全開滴下)が可能です。

日本静脈経腸栄養学会では、液体栄養実施に伴う様々な悪影響を  
「液体栄養剤症候群」と定義付けるようになりました。  
経管栄養実施時に、従来の  
「液体栄養を基本として、可能なら半固形状流動食」との考え方から  
「半固形状流動食を基本として、無理な場合には液体栄養」という  
考え方へのシフトが求められてきています。  
粘度可変型流動食は、それを可能にします。



※適応には幾つか条件があり、現在マニュアルや勉強会を鋭意準備中  
ですが、もし使用希望があればNSTにコンサルトをお願いします。